

市場予測・将来展望シリーズ ～ Smart・House 編

2016年版 スマートハウス市場の実態と将来展望

—スマートエネルギー ～ スマートハウス／ZEH 市場予測・関連機器・電力ガス自由化 —
～ 特別編集版「2016 HEMS 市場・関連機器の実態と将来展望」～

Sample

株式会社 日本エコノミックセンター

Copyright JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD.

はじめに

スマートハウスは、太陽光発電システムや家庭用燃料電池システム（エネファーム）で電気を作り、家庭用蓄電池・電気自動車・プラグインハイブリッド車で電気を蓄電、家庭用エネルギー管理システムによって住宅で消費するエネルギーを効率的に管理・制御する住宅のことです。エネルギーを自分で作って上手に使用する、いわばエネルギーの自給自足を目指した住宅を指しています。

また、地域のエネルギーをスマートメーター（通信機能付き電力量計）で介した IT 技術で上手にコントロールするスマートグリッド（次世代電力網）を構成する最小単位ともいわれています。

政府の住宅政策では、低炭素社会の実現に向けた住宅・建築物の取組みが着々と進んでいます。一つ目は総合的な省エネ住宅評価基準の見直しです。2020 年までに標準的な新築住宅は ZEH（ネット・ゼロ・エネルギーハウス）に向かいます。既存住宅の省エネルギーリフォームは、現在の 2 倍程度にすることが目標として掲げられています。さらに、30 年には住宅・建築物の省エネ性能の確保が法で義務付けられるようになります。

この流れは住宅の作り手側にとっても大きな影響をもたらします。建材などの生産体制、新技術開発、中小工務店などの対策について、国は支援をより強化する流れに進んでいます。今後は、次世代環境配慮型住宅のスマートハウスが、市場の注目を集めていくものと見られます。

本レポートの第 I 章ではスマートハウスの世界及び国内市場（日系メーカー）推移予測・シェアなどを掲載しています。第 II 章では、HEMS（へムス）市場などの世界／国内市場の推移予測・補助対象機器などを載せています。第 III 章では、スマートハウス関連市場の動向と展望について述べています。第 IV 章では、電気ガス小売自由化について掲載しています、また第 V 章では 2014～20 年度までの関連メーカー取扱製品、出荷金額推移予測、動向などについて編集されています。

弊社は本年、創立 60 周年を向かえる市場調査・マーケティング会社です。本レポートは、専門の編集スタッフにより調査・編纂されております。調査レポートは、印刷タイプの他に CD タイプなども用意しています。同シリーズは、新規参入を検討されている企業様を含めた事業計画の立案、予備調査、事業計画書の作成・展開など幅広く活用されています。

平成 28 年 9 月 第 1 版
株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
スマートエネルギーグループ

☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

2016 スマートハウス市場の実態と将来展望 ～ 将来展望シリーズ

はじめに

第 I 章 スマートハウス市場の動向と展望

1. スマートハウス・ZEH市場の動向と実態	1
(1) スマートハウスの背景と定義	2
(2) スマートハウスの機能を活用	2
(3) スマートハウス内のシステム構成	3
(4) スマートハウスの参入企業状況	4
① スマートハウス世界／国内市場推移・予測（2011～40年度）	5
② スマートハウス地域別市場推移・予測（2011～40年度）	6
③ スマートハウス地域別構成比率（金額ベース）	7
④ スマートハウスメーカー別市場推移・予測（2015～40年度）	8
⑤ スマートハウスメーカー国内シェア（戸数ベース）	9
⑥ ZEH・ZEB市場推移／予測（2015～40年度）	10
⑦ 新設住宅着工戸数推移・予測（2005～20年度）	11
⑧ 戸建て住宅国内販売シェア（戸数ベース）	12
⑨ スマートハウス関連市場別推移・予測（2011～40年度）	13
⑩ スマートハウス関連市場別構成比率（金額ベース）	14
(5) スマートハウスの動向と製品例	15
2. ネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）の動向	18
(1) ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの概要	18
(2) ZEB・ZEHのロードマップについて	19
(3) ZEH支援事業一般公募について	20
(4) ZEHビルダーの動向と展望	21
(5) 住宅省エネリノベーション促進事業費補助金	22
(6) ZEB実証事業について	24
3. スマートハウス・ZEH関連市場の動向と展望	25
(1) 省エネ家電・設備の概要について	25
(2) 省エネ機器・設備の動向について	26
(3) 住宅用太陽光発電の動向と展望	27
① 住宅用太陽光発電市場推移・予測（2005～40年度）	28
② 住宅用太陽光発電市場国内シェア（戸数ベース）	29
③ オール電化住宅市場推移・予測（2011～40年度）	30
④ 太陽光発電＋オール電化住宅市場推移・予測（2011～40年度）	31
(4) 家庭用蓄電池の動向と展望	32

①家庭用蓄電池市場推移・予測（2011～40年度）	33
②家庭用蓄電池メーカー国内シェア（金額ベース）	34
③家庭用蓄電池メーカー別出荷金額予測（2015～40年度）	35
④家庭用燃料電池市場推移・予測（2005～30年度）	36
⑤家庭用燃料電池国内市場シェア（台数ベース）	37
(5) スマートメーターの国内動向と展望	38
①スマートメーター国内市場推移・予測（台数）2011～30年度	39
②スマートメーター国内市場推移・予測（金額）2011～30年度	40
③スマートメーター国内メーカーシェア（台数ベース）	41
④スマートメーター国内メーカーシェア（金額ベース）	42
⑤スマートメーターメーカー出荷台数推移・予測 2011～17年度	43
⑥スマートメーターメーカー出荷金額推移・予測 2011～17年度	44
(6) 電気自動車関連機器の動向と展望	45
①V2G・V2H 世界／国内市場予測（2015～40年度）	46
②EV・PHV 充電器世界／国内市場推移予測（2011～40年度）	47
(7) マイクロ風力発電市場の動向と展望（2011～40年度）	48
・マイクロ風力発電市場推移予測／シェア（台数ベース）	50
4. LED 照明市場の動向と展望	51
(1) LED 照明市場概況と動向	51
①LED 照明器具／照明器具世界市場予測（2008～20年度）	52
②LED 照明器具／照明器具国内市場予測（2008～20年度）	53
③LED 照明器具世界／国内市場推移予測（2008～20年度）	54
④LED 照明器具メーカー国内シェア（金額ベース）	55
5. スマート白物家電の動向と展望	56
(1) スマート白物家電の概要と動向	56
(2) スマートエアコンの概要と動向	56
(3) スマート白物家電メーカーの動向	57
(4) エコネットコンソーシアム（エコネットライン）	57
①白物家電世界市場推移・予測（2008～20年）	59
②白物家電地域別構成比率（台数ベース）	60
6. エコキュート・クッキングヒーターの動向と展望	61
(1) エコキュート市場の動向と展望（2008～20年度）	61
・エコキュート国内市場推移・予測／シェア	62
(2) IHクッキングヒーター市場の動向と展望（2008～20年度）	63
・IHクッキングヒーター国内市場推移・予測／シェア	64
(3) エコジョーズの動向と展望	65
(4) 建築用断熱材の動向と展望	66
7. 住宅用分電盤の動向と展望	67
(1) 住宅用分電盤の概要と動向	68

(2) スマートコスモ（住宅分電盤）の動向	69
【参考】スマートマンション導入加速化推進事業費補助金	70

第Ⅱ章 HEMS（へムス）市場の動向と展望

1. HEMS・BEMS・CEMSの市場概況と動向	71
(1) HEMS（Home Energy Management System）の概要と動向	71
(2) BEMS（Building Energy Management System）の概要と動向	73
(3) HEMS・BEMS・FEMS・CEMSの無線化	75
(4) HEMS アライアンス（共同検討体制）	76
(5) HEMS 世界／国内市場推移予測・シェア	77
① HEMS 世界／国内市場推移・予測（台数）（2011～40年度）	77
② HEMS 世界／国内市場推移・予測（金額）（2011～40年度）	78
③ HEMS 地域別市場推移・予測（台数）（2011～40年度）	79
④ HEMS 地域別市場推移・予測（金額）（2011～40年度）	80
⑤ HEMS 国内市場推移・予測（台数）（2011～40年度）	81
⑥ HEMS 国内市場推移・予測（金額）（2011～40年度）	82
⑦ HEMS 国内メーカーシェア（台数）（2014～15年度）	83
⑧ HEMS 国内メーカーシェア（金額）（2014～15年度）	84
⑨ HEMS メーカー別市場推移・予測（台数）（2013～20年度）	85
⑩ HEMS メーカー別市場推移・予測（金額）（2013～20年度）	86
⑪ HEMS・BEMS・CEMS 別国内市場推移・予測（台数ベース）	87
⑫ HEMS・BEMS・CEMS 別国内市場推移・予測（金額ベース）	88
2. HEMS 用デバイスの動向	89
(1) HEMS 用デバイスの概要と動向	90
(2) 回路部品・デバイスの概要と動向	91
(3) 高周波部品・デバイスの概要と動向	92
(4) 電解コンデンサ市場の動向と展望	93
(5) チップ抵抗器の市場の動向と展望	96
(6) インダクタの市場の動向と展望	99
(7) 水晶発振子の市場の動向と展望	102
3. HEMS 主要製品の概要と仕様	105
(1) エネゲート 株式会社	105
(2) 東芝ライテック 株式会社	106
(3) 東日本電信電話株式会社	107
(4) パナソニック 株式会社	108
(5) 日立マクセル 株式会社	109
(6) 三菱電機 株式会社	110
【参考】環境共創イニシアチブ（SII）	111
【参考】HEMS 機器導入支援事業	112
【参考】BEMS アグリゲータ名称一覧	113

【参 考】 HEMS 導入事業に係わる補助対象機器一覧	114
-----------------------------	-----

第三章 スマートハウス関連市場の動向と展望

1. 世界スマートコミュニティの現状と動向	117
(1) スマートコミュニティ構想の概要	117
(2) 世界のスマートコミュニティ概要	118
① スマートコミュニティ世界市場推移・予測 (2013~40 年度)	119
② スマートコミュニティ世界市場 (構成市場) 推移・予測	120
③ スマートコミュニティ地域別市場推移・予測 (拠点ベース)	121
④ スマートコミュニティ地域別市場推移・予測 (金額ベース)	122
(3) 水ビジネスの動向と展望 (世界・国内)	123
① スマートコミュニティ国内市場推移・予測 (2013~40 年度)	125
② スマートコミュニティ国内市場 (構成市場) 推移・予測	126
2. 国内スマートコミュニティの展開	127
(1) スマートコミュニティへの構築	127
(2) Tsunashima サステナブル・スマートタウン	128
(3) 経済的な動議つけ (インセンティブ)	130
(4) 新しいビジネスの可能性	131
(5) 今後の実証事業の進め方	132
(6) 実証試験を契機とした今後	133
(7) 海外への展開について	134
(8) 国際標準の動きについて	135
(9) スマートグリッドとマイクログリッド	136
(10) スマートハウスとの関係	137
(11) ロボットと共存できる地域社会	138

第四章 電力ガス小売自由化市場の動向と展望

1. 電力小売自由化の背景と動向	139
(1) 電力小売自由化の背景	139
(2) 電気事業の概要について	139
(3) 電力小売自由化の最新関連動向	142
(4) 電力小売自由化ビジネスの動向	144
2. 電力自由化市場の概況と動向	146
(1) 電力自由化と発電事業	146
(2) 電力小売り自由化の効果	147
① 新電力販売電力量推移表 (2004~15 年度)	148
② 新電力販売電力量シェア (販売量ベース)	149
③ 新電力販売量事業者別推移表 (2005~15 年度)	150
④ 新電力販売量・販売額販売推移/予測 (2014~20 年度)	151

3. ガス小売自由化の背景と動向	152
(1) ガス小売自由化の背景	152
(2) ガス事業の概要について	153
(3) ガス小売自由化の最新動向	154
(4) ガス小売自由化の概況と動向	156
(5) 家庭用エネルギーの今後	157
①都市ガス販売量推移表（2006～15年度）	158
②都市ガス顧客数シェア（用途・地域別）	159

第V章 スマートハウス関連企業の動向と展望

(1) 旭化成ホームズ 株式会社	161
(2) 大崎電気工業 株式会社	162
(3) サンヨーホームズ 株式会社	164
(4) 住友林業 株式会社	165
(5) 積水ハウス 株式会社	167
(6) 大和ハウス工業 株式会社	170
(7) 株式会社 東芝	172
(8) トヨタホーム 株式会社	175
(9) ニチコン 株式会社	177
(10) 日本電気 株式会社	180
(11) パナソニック 株式会社	182
(12) パナホーム 株式会社	185
(13) 富士通 株式会社	187
(14) ミサワホーム 株式会社	189
(15) 三井ホーム 株式会社	191
(16) 三菱電機 株式会社	193
【参考】スマートハウス関連略語リスト	196
【参考】スマートコミュニティ・アライアンス	197
【参考】スマートハウス情報活用基盤整備フォーラム	198
【参考】スマートハウス関連企業の戦略（表）	200

主要企業索引

住友林業 株式会社	165
積水ハウス 株式会社	167
大和ハウス工業 株式会社	170
トヨタホーム 株式会社	175
パナホーム 株式会社	185
ミサワホーム 株式会社	189
三井ホーム 株式会社	191
三菱電機 株式会社	193

第 I 章 スマートハウス市場の動向と展望（サンプル）

1. スマートハウス・ZEH 市場の動向と実態

(1) スマートハウスの背景と定義

① スマートハウスの背景

2010 年 6 月に閣議決定の「エネルギー基本計画」において、20 年に一次エネルギー再生可能エネルギーの割合を 10% とし、「暮らし」（家庭部門）においてもエネルギー消費から発生する CO2 を半減させるという目標が示されている。

この目標を達成するためには、需要側のエネルギー利用形態を変化させることなく実現することは困難であり、技術革新製品の市場浸透のみに頼るのではなく、需要側の意識改革による全体エネルギー利用量の削減（正味の省エネルギー）が欠かせない。しかし、需要家は、自分の行動と使用する機器が供給者に対して（さらには社会システム全体に）どう影響を及ぼすかを知るすべは現在ほとんどない。需要家や政策実行者がエネルギー情報を見ることができ、それを基に行動を可能にする参加型の仕組みによって、社会全体で必要なエネルギー量が最適化されることが期待される。

そして、スマートグリッドによる変化で、生活者とエネルギー事業者が双方向のネットワークで繋がるようになる。

・新たなライフライン「情報とエネルギーの双方向ネットワーク」により、生活者に情報が入り込み、生活者に情報が入り込み、生活者に情報が入り込み、生活者がより賢くなることで、新たなライフスタイル・新たなサービスが創出される。

・新サービスを可能にする情報へのアクセスのオープン性の確保と情報保護を両立させるようなルールやシステムの確立が必要である。

○現 状 「インフラ事業者が需要に合わせて供給調整」



○将 来 「情報系インフラ※ があらゆるものを結びつけ、より快適で豊かな社会」

※ 高信頼性が求められる（プラットフォーム）

※ 以下、サンプルのため記載内容を省略

①スマートハウス世界／国内市場推移・予測（2011～40年度）サンプル

スマートハウス世界・国内市場予測



※ 日本エコノミックセンター予測

※ 以下、サンプルのため棒グラフを省略

第Ⅱ章 HEMS（へムス）市場の動向と展望（サンプル）

1. HEMS・BEMS・CEMSの市場概況と動向

(1)HEMS（Home Energy Management System）の概要と動向

①HEMSの定義

HEMSとは、「ホームエネルギーマネジメントシステム」のことである。IT（情報技術）を駆使して家庭内の電力供給・消費と蓄電機能を管理する省エネ住宅の中心部である。

住宅各社のほか三菱電機やパナソニックなど電機各社もHEMS開発を競っている。どの性能をどの程度盛り込むのか、独自開発か他社製品の採用かは、発売時期とも絡む微妙な問題となる。海外では米国を中心に欧州でも市場が形成されつつある。

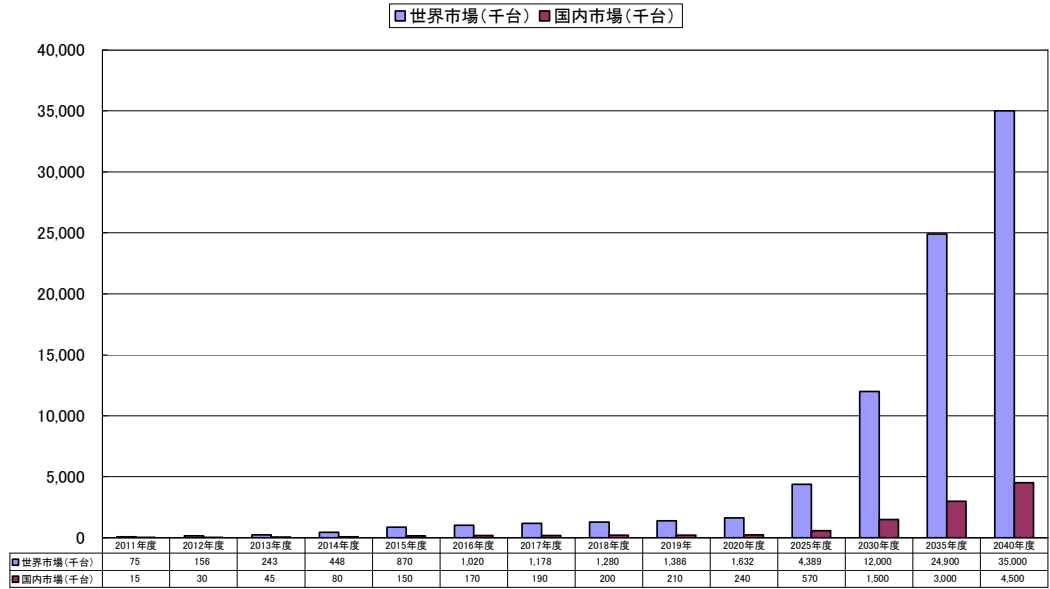
また、エネルギー管理システム（EMS）とは、電力使用量の可視化、節電（CO2削減）の為の機器制御、ソーラー発電機等の再生可能エネルギーや蓄電器の制御を行うシステムである。管理対象により、HEMS、BEMS、FEMS、CEMSという名前がそれぞれ付けられている。HEMS（へムス）は、住宅向け、BEMS（べムス）は商用ビル向け、FEMS（フェムス）は工場向け、CEMS（セムス）はこれらを含んだ地域全体向けとなる。それぞれに管理対象は違うが、電力需要と電力供給のモニターとコントロールするというシステムの基本は共通である。

- C E M S（地域全体）　－　H E M S（住宅向け）
- －　B E M S（商用ビル向け）
- －　F E M S（工場向け）

※ 以下、サンプルのため記載内容を省略

①HEMS（ヘムス）世界／国内市場推移・予測（台数）サンプル

HEMS(ヘムス)世界/国内市場推移・予測



※ 日本エコノミックセンター予測

※ 以下、サンプルのため棒グラフを省略

第Ⅲ章 スマートハウス関連市場の動向と展望（サンプル）

1. 世界スマートコミュニティの現状と動向

(1) スマートコミュニティ構想の概要

スマートグリッドの包括するものとして、都市全体をインテリジェント化する「スマートコミュニティ」の構想が注目を浴びている。社会インフラ全体を都市単位で捕らえて、電力だけでなく、水や廃棄物の処理、交通監視なども対象として、利便性や低炭素化、投資対効果などを総合的に推進していくのが目的である。スマート（賢い）な街づくりに向けて、都市の神経網を担う情報通信技術を巡る競争も活発化している。

スマートコミュニティ構想としては、産業界のみならず、国家を上げた取り組みとして展開されている。「スマータープラネット（地球）」を表明した米 IBM は、同構想を積極的に推進して、全世界でも約 150 件のプロジェクトを獲得しているという。例としては、ブラジルのリオデジネイロ、米のワシントン DC、シンガポールの 3 都市（シティ）である。そのうちリオデジネイロは 2014 年にワールドカップや 16 年のオリンピックを開幕したが、洪水の被害など問題点もあった。そのため、洪水などの危機より脱出し、エネルギーなども統合したプロジェクトに発展させた。シンガポールは世界で最も優れた都市を目指し、ワシントン DC は老朽化している社会インフラの整備が目的であるとする。

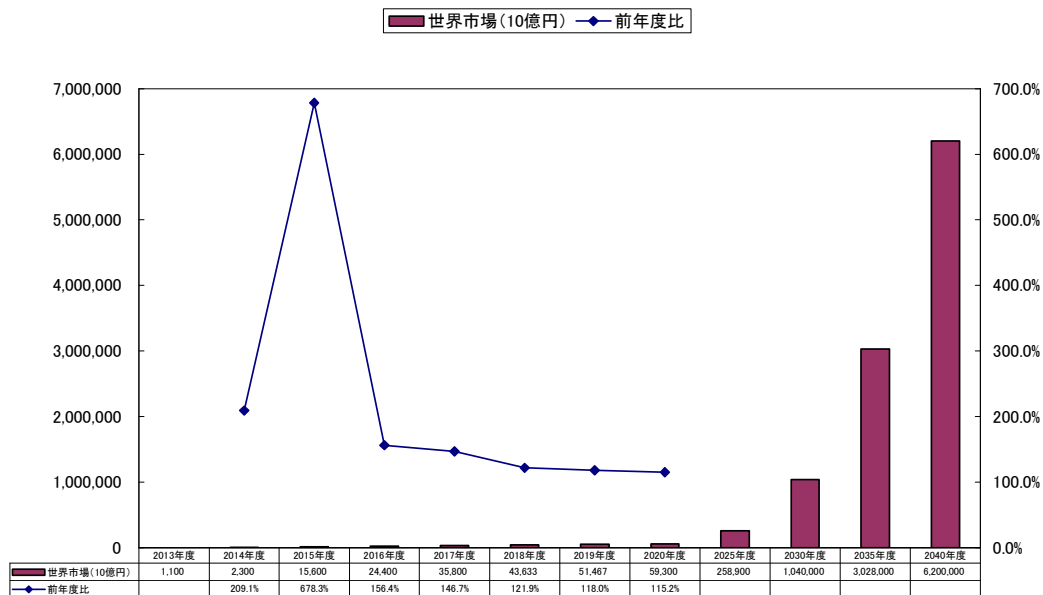
スマートコミュニティ（シティ）の段階として考えられているのは、第一ステップで部門ごとに抱える課題への取り組みである。第二ステップは、交通や安全などのインフラデータを統合や分析して、複数の部門で共有する。第三ステップは、各部門でデータを共有しながら有効活用していく、いわば最適化である。第三ステップまでは、10 年掛かることもあるが、現状では第一から第二ステップへ移行している都市が多いとされる。

このように米 IBM は、企業や官庁（エンタープライズ）分野で営んできた方法を、企業よりコミュニティ（都市）単位に広げたものである。10 年以上の長期的な展望でビジネスを展開している。

※ 以下、サンプルのため記載内容を省略

①スマートコミュニティ世界市場推移・予測（サンプル）

スマートコミュニティ世界市場推移・予測（金額）



※ インフラ+発電・蓄電設備+新エネルギー+環境対応車の合計値

※ 以下、サンプルのためグラフを省略

第IV章 電力ガス小売自由化市場の動向と展望（サンプル）

1. 電力小売自由化の背景と動向

電力自由化または、電力市場の自由化とは、従来から独占されてきた電気事業において市場参入規制を緩和し、市場競争を導入することである。電気料金の引き下げや電気事業における資源配分の効率化を進めることを目的としている。

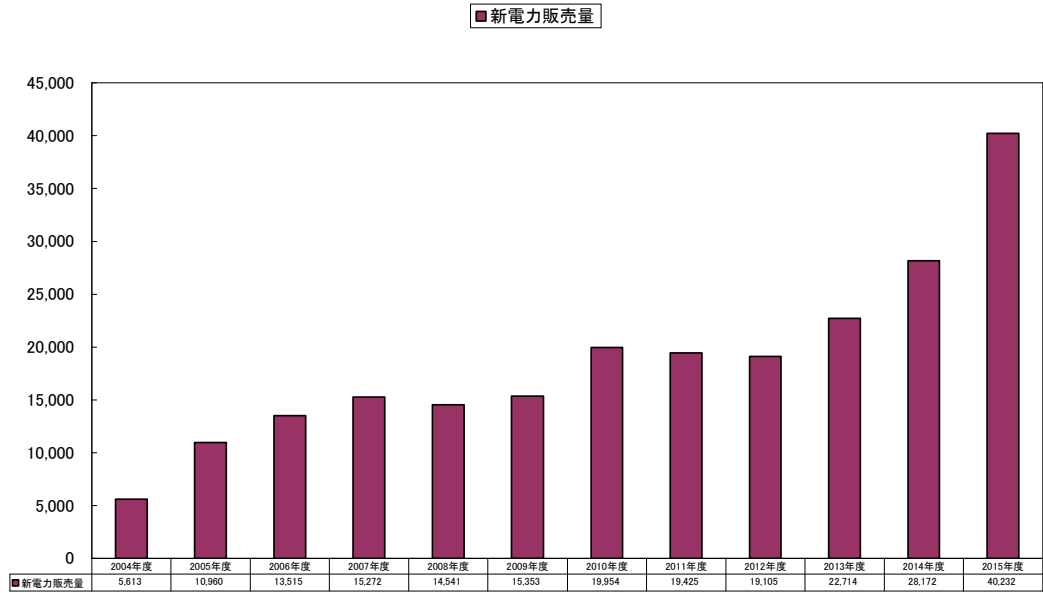
具体的に行われることとしては、

- ・誰でも電力供給事業者になることができる（発電の自由化）
- ・どの供給事業者からでも電力を買えるようにする（小売の自由化）
- ・誰でも既設の送・配電網を使って電気を送・配電できるようにする（送・配電の自由化）
- ・既存の電力会社の発電部門と送電部門を切り離すことで競争環境を整える（発送電分離）
- ・電力卸売市場の整備 などがある。

※ 以下、サンプルのため掲載内容を省略

①新電力販売電力量推移（グラフ）サンプル

新電力販売電力量推移 単位: 百万kWh



※ 以下、サンプルのため棒グラフを省略

第V章 スマートハウス関連企業の動向と展望（サンプル）

○×△ 株式会社	
本 社	※ 以下、サンプルのため記載内容を省略
会社概要	
業績（連結）	
売上構成	
関連製品	
研究/開発	
担当/営業	

《関連商品販売件数》

（単位：百万円 / 件）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2020 年度
総売上高					
前年度比					
スマートハウス ※					
前年度比					

※ HEMS を搭載する省エネ住宅

《商品別販売件数》

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2020 年度
太陽光発電					
前年度比					
蓄電池搭載					
前年度比					
HEMS 搭載					
前年度比					

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

【事業動向】

※ 以下、サンプルのため記載内容を省略

2016 年版
スマートハウス市場の実態と将来展望

発行: 2016年9月23日 第1版
定価: 本体価格70,000円+消費税
発行人: 石澤 宜之
編集: 株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
発行所: 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-11-5 3F
株式会社 日本エコノミックセンター
JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD
TEL :03-3808-0611(代)
FAX:03-3808-0617
URL:<http://www.j-economic.co.jp>
E-mail:mail@j-economic.co.jp

- 《禁無断コピー・転載》 万一、乱丁や落丁の場合はお取り替え致します。

Copyright (C) 2016 Japan Economic Center, Co., LTD.

Printed in Japan 2016

ISBN978-4-907908-63-8 C3060 ¥70000E

△▼△▼ 主要調査レポートご案内(最新版) ▼▲▼▲

～ 市場予測・将来展望シリーズ - 創エネ・蓄エネ・省エネ関連 - 好評発売中!

※ 価格は、すべて税抜きです。

新刊 2016 スマートハウス市場の実態と将来展望 ～ スマートハウス市場実態/予測・HEMS・関連機器	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年9月刊
2016 リチウムイオン電池市場の実態と将来展望 ～ リチウム二次電池市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年8月刊
2016 スマートグリッド市場の実態と将来展望 ～ スマートグリッド市場実態/予測・構成市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年7月刊
2016 EMC・ノイズ対策市場の実態と将来展望 ～ EMCノイズ対策市場実態/予測・関連技術・応用製品	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年6月刊
2016 スマートコミュニティ市場の実態と将来展望 ～ スマートコミュニティ市場予測・関連市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年5月刊
2016 蓄電池・キャパシタ市場実態と将来展望 ～ 蓄電デバイス市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年4月刊
2016 HEMS市場・関連機器の実態と将来展望 ～ HEMS・BEMS市場実態/予測・周辺機器・デバイス	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年3月刊
2016 車載用・産業用蓄電池市場の実態と将来展望 ～ 大容量(二次電池・キャパシタ)市場実態予測・部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年2月刊
2016 太陽光発電市場・技術の実態と将来展望 ～ 地産地消・太陽光発電市場実態/予測・関連部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年1月刊
2016 二次電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代・二次電池市場/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年12月刊
2016 燃料電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 水素社会・燃料電池市場実態/予測・燃料電池車	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年11月刊
2016 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ コンデンサ市場実態/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年10月刊
2015 次世代自動車市場・技術の実態と将来展望 ～ 自動運転車・環境対応車市場実態/予測・インフラ・電池	B5判・CD-ROM 220頁 ¥70,000～¥110,000 2015年9月刊

各調査レポートのお問い合わせ・お申し込みは

創業 50 周年 (Since 1966)

企画・市場調査・出版・資産設計

株式会社 日本エコノミックセンター

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11番5号 日本橋吉泉ビル3F